

資料編 バリアフリー改修事例のデータベース

資料 バリアフリー改修事例のデータベース

1. 収録しているバリアフリー改修の事例

1) 対象団体

国土交通省が実施した、平成 22 年度「高齢者等居住安定化推進事業」及び平成 23 年度「高齢者・障害者・子育て世帯居住安定化推進事業」の「ケア連携型バリアフリー体制整備事業（部門）」に選定された団体のうち、理学療法士や作業療法士等のケアの専門家と建築士の連携等において特に先行的な取り組みを行っていると考えられる次の 4 団体を調査対象とした。

- ① 公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会
- ② NPO 法人横浜市まちづくりセンター
- ③ NPO 法人福祉医療建築の連携による住居改善研究会
- ④ NPO 法人まち・すまいづくり

2) 対象事例

各団体について、「ケア連携型バリアフリー体制整備事業（部門）」で実施した改修事例を中心とし、当該団体が実施したその他事例についても幅広く情報を収集した。

情報収集し収録している事例と、実施団体の情報を表資.1 に示す。

表資. 1 情報収集し収録しているバリアフリー改修事例

事例の分類	収録事例	実施団体
高齢者等の加齢に伴う 身体機能の低下又は 疾病に伴う身体障がい に対応した事例	事例 1～事例 8	公益社団法人かながわ住まい・まちづくり協会
	事例 9～事例 10	NPO 法人横浜市まちづくりセンター
	事例 11～事例 21	NPO 法人福祉医療建築の連携による住居改善研究会
	事例 22～事例 24	NPO 法人まち・すまいづくり
高齢者以外の者の事 故等による身体障がい に対応した事例	事例 25	NPO 法人横浜市まちづくりセンター
	事例 26～事例 31	NPO 法人福祉医療建築の連携による住居改善研究会

2. 収録している事例情報と事例のデータベース

収録している事例情報は、第 1 章の表 1.4「バリアフリー改修に向けた現況アセスメントシート」、表 1.5「バリアフリー改修の計画シート」、及び第 3 章の表 3.2「バリアフリー改修の効果検証シート」に記載している情報であり、その概要は次のとおりである。

I. バリアフリー改修に向けた現況アセスメント

I-1 住宅の基本属性

I-2 改修前の対象者本人及び家族の状況

- 1) 対象者と世帯の状況(対象者の年齢、性別、同居家族の有無、非同居家族の有無等)
- 2) 対象者の心身状況(身長・体重、病気の有無・内容、障がいの有無・内容、認知症の有無・程度)
- 3) 対象者の介護状況(介護認定状況・要介護度、介護サービス・福祉用具の利用状況)
- 4) 対象者の生活状況(生活行動範囲、住宅での生活階、1日の標準的な生活、1週間の標準的な生活、社会生活、対象者の意欲等)
- 5) 主介護者の状況(介護者の有無、役割と介護内容、社会生活、介護者の負担感等)

I-3 改修前の対象者本人の基本的生活行為の状況

- 1) 家事の実施状況(買い物、食事の支度、洗濯、掃除等)
- 2) 移動方法と具体の状況(屋内移動、屋外移動)
- 3) 生活行為別の動作能力の具体の状況(排泄、入浴、洗面、更衣、食事、就寝、移動・外出)

I-4 改修前の住宅の状況と問題点

(部位別:寝室、便所、浴室、洗面・脱衣室、食堂・台所、居間、廊下、階段、玄関、玄関アプローチ等)

II. バリアフリー改修の計画

II-1 改修に対する要望と目的

- 1) 改修に対する要望(対象者からの具体的要望、介護者や同居家族からの具体的要望)
- 2) 改修の目的(対象者のための改修の目的、家族のための改修の目的)

II-2 改修のプロセス

- 1) 専門家の関与(関わった専門家の職種と役割、専門家間の意見調整により決定・変更した点)
- 2) 検討の技術的プロセス(本人の身体状況の将来変化に向けて配慮した点、同居家族のために配慮した点、外部からの介護サービス者のために配慮した点、シミュレーションの実施の有無と具体の状況、福祉器械・設備等の試し使い等の有無と具体の状況、空間・予算等の制約により苦労した点等)

II-3 スケジュールと費用

- 1) 検討スケジュール(相談経緯と相談期間、設計期間、工事期間)
- 2) 費用(当初予算額、工事費総額と費用負担額)

II-4 改修の具体的内容と建築士やケアの専門家が関わった技術的工夫点(部位別)

II-5 改修前後の図面

III. バリアフリー改修の効果検証

III-1 改修後の対象者本人及び家族の状況と改修前との変化

III-2 改修後の対象者本人の基本的生活行為の状況と改修前との変化

III-3 改修の総合評価

- 1) 改修の総合評価(本人、介護者・家族)
- 2) 改修による思わぬ効果・生活の変化等(本人、介護者・家族)
- 3) 当初希望した内容が実際の改修で異なった点と理由(本人、介護者・家族)
- 4) 改修を行った上での今後の課題(本人、介護者・家族)

31事例の概要を表資.2に示す。また、上記の観点から、31事例の詳細情報を収録した「バリアフリー改修事例シート(アセスメント・計画・効果検証)」を表資.2に引き続いて示す。

表資. 2 収録しているバリアフリー改修事例の概要(特徴)

(1) 高齢者等の加齢に伴う身体機能の低下又は疾病に伴う身体障がいに対応した事例

事例	住宅概要	対象者の状況	同居家族	改修の目的と内容	
				目的	内容
事例 1 (P141 ～)	持家 木造 2 階建	85 歳／女 要介護3 障がい:歩行困難 認知症:中程度	娘夫婦 (いずれも 60 歳代)	⑥	・介助が容易な便所に改修するとともに、手すりを設置し、移動の安全性と容易性を確保することで、介護者の介助負担を軽減する。
				②	・対象者が安全・快適に利用できる寝室を確保する。
				③	・衛生面に配慮し寝室から直接アクセスできるシャワー室と専用の洗面台を設置する。
事例 2 (P152 ～)	持家 木造 2 階建	63 歳／女 要介護5 障がい:嚥下障害、 右片麻痺、左上肢・ 下肢筋力低下等 認知症:無	夫 (60 歳代)	③	・車いすで自立して1階で生活できるようにする(車いすに対応した寝室、食堂・台所流し台、洗面台、浴室・脱衣室のしつらえや面積の確保、寝室から車いすで直接利用できる便所の新設)。
				④	
				⑥	・外出時の介助負担軽減のため、車いすで自力での外出ができる経路を確保する(玄関踏込み部のかさ上げにより段差解消、車庫内へのリフトの設置)。
事例 3 (P164 ～)	持家 木造 2 階建	67 歳／女 要介護2 疾病:脊髄梗塞症 障がい:完全両下肢 麻痺 認知症:無	夫 (70 歳前後)	③	・車いすで自立して生活できるようにする(居間、寝室、台所流し台、便所、洗面・脱衣室、浴室等の車いす対応の改修)。
				②	
				④	
				⑤	・車いすでの外出ができるよう外出経路を確保する。
事例 4 (P177 ～)	持家 木造 2 階建	77 歳／男 要介護2 疾病:脱髄性多発神経炎(筋力低下) 障がい:感覚障がい (1種1級) 認知症:無	妻 (70 歳代中頃)	⑥	・各所に手すりを設置し、日常生活における介護者の介助負担を軽減する。
				①	・車いす利用で自立して生活できるようにする(車いす利用を想定した、寝室、便所、洗面・脱衣室、浴室への改修)。
				②	
事例 5 (P188 ～)	持家 木造 3 階建	79 歳／女 要介護4 疾病:慢性関節リウマチ(ステージ 4) 障がい:上肢及び手指の機能障害 認知症:無	娘夫婦、孫	⑥	・介助者の介護負担を軽減するため、車いすで自立して上下階の移動ができるEVを設置する。また、車いすでの外出ができるよう外出経路を確保する。
				③	・上記の改修により、車いすでの自立した生活と、本人の生活行動範囲を拡大する。
				④	
事例 6 (P199 ～)	持家 木造 2 階建	76 歳／男 要介護度:未申請 障がい:視神経萎縮 (障害者手帳1種4級) 認知症:無	妻 (71 歳)	②	・移動の安全性・容易性を確保するため、玄関ホール・居間・和室間の段差の解消。浴室の段差解消、手すり設置。1階・2階のトイレの段差解消及び出入口ドアの引き戸への改良、階段への手すり設置。
				①	
				③	
				⑤	・段差解消や手すりの設置により、自立した生活を可能とし、介護者の見守りや介助の負担を軽減する。

※ 改修の目的欄の丸数字は、次の改修目的を意味している。以下同じ。

- 〈本人〉 ①日常生活行動能力の維持 ②移動や動作の安全性の確保 ③移動や動作の容易性の確保
④生活行動範囲の確保・拡大 ⑤その他(本人の自尊心の向上、QOL の向上、社会生活の安定・充実等)
〈家族等〉 ⑥介護・介助負担の軽減 ⑦その他(家族等の QOL の向上、社会生活の安定・充実等)

表資. 2 収録しているバリアフリー改修事例の概要(特徴)(つづき)

事例	住宅概要	対象者の状況	同居家族	改修の目的と内容	
				目的	内容
事例 7 (P210 ～)	持家 木造 2 階建	80 歳／女 要支援1 障がい: 右下肢切断(身体障害手帳3級) 認知症: 軽度～中度	無	② ① ③	・移動や動作の安全性の確保により、日常生活行動能力の維持を図るため、1階の生活行動範囲の各所に手すりの設置、浴室出入り口の段差の軽減、浴室の改良(浴槽の交換、肌触りの良い床タイルへの交換、混合水栓等への交換)。
事例 8 (P222 ～)	持家 木造 2 階建	80 歳／女 要介護5 障がい: 脳梗塞による右片麻痺(身体障害手帳3級)、感覚障害(中級度) 認知症: 有(中程度)	夫 (81 歳)	⑥	・介助者の介護負担を軽減するため、浴室の面積拡大、浴槽の交換、手すり設置、LDK の出入口の幅の拡張、玄関から前面道路までのスロープ設置、寝室脇に便所の新設。
				② ③	・上記の改修により、移動や動作の安全性・容易性を確保する。
事例 9 (P233 ～)	持家 木造 2 階建	71 歳／男 要支援1 疾病: 両側変形性膝関節症ほか 障がい: 両側膝関節機能障害(障害者手帳1級) ・認知症: 無	妻 (68 歳)	② ③	・移動や動作の安全性・容易性を確保するため、段差の解消、和室(畳)のフローリングへの変更。 ・将来的な介助のしやすさを想定した間取り改修(回遊式の動線の確保、廊下の幅員の拡張、浴室、洗面・脱衣所等の面積の拡張等)。
				⑥	・上記の改修により、介護者の介助負担を軽減する。
事例 10 (P244 ～)	持家 鉄骨造 3 階建	83 歳／男 要介護3 疾病: 糖尿病性腎症、心臓疾患 障がい: 腎機能障害、右大腿骨頸部骨折 認知症: 無	妻 (76 歳)	③ ② ⑤	・車いすで生活ができるよう、住宅内各所の段差の解消、和室(畳)のフローリングへの変更、車いすで移動できる通路幅の確保 ・車いすでの外出動線の確保
事例 11 (P255 ～)	持家 木造 2 階建	68 歳／女 要支援1 疾病: 先天性視力障害 障がい: 視力障害(全盲・視覚障害1級) 認知症: 無	夫 (70 歳前後)	② ① ③	・食堂、台所の出入り口扉を改修し安全性を確保する。安全に利用できる調理器具を導入する。 ・安全で衛生的な便所に改修する。 ・安全で自立した入浴が可能な浴室に改修する。 ・廊下の床段差を解消し安全性を確保する。 ・出入口扉を安全な素材に変更する。 ・階段に手すりを設置し移動の安全性を確保する。 ・ルーフテラスへの出入口の段差を解消し安全性を確保する。
事例 12 (P266 ～)	持家 混構造 3 階建	62 歳／男 要介護: 自立(未申請) 疾病: 糖尿病(両下肢切断) 障がい: 断両下肢機能障害 1 種 2 級 認知症: 無	長男 (20 歳前後)	② ③	・1 階から 2 階への安全なアクセスを確保する。 ・住宅の入り口から前面道路へのアクセスを確保する。

表資. 2 収録しているバリアフリー改修事例の概要(特徴)(つづき)

事例	住宅概要	対象者の状況	同居家族	改修の目的と内容	
				目的	内容
事例 13 (P277 ～)	持家 木造 3 階建	61 歳／女 要介護2 疾病: 下肢筋力低下、脳幹出血、多発性硬化症 障がい: 両上下肢機能障害(2級)、四肢麻痺等 認知症: 無	夫 (66 歳) 娘 (30 歳)	② ③	・寝室での歩行器での移動の容易性と安全性を確保する。 ・安全で自立した排泄を可能とする便所に改修する。 ・廊下と室間の移動の安全性を確保する。
事例 14 (P288 ～)	持家 木造 2 階建	67 歳／男 要支援1 疾病: 高血圧症 障がい: 無 認知症: 無	長男 (30 歳代)	② ③	・入浴の安全性と快適性を確保する。 ・空間の移動の安全性と容易性を確保する。 ・土間を居室と連続させ、移動の安全性を生活の快適性を確保する。
事例 15 (P299 ～)	持家 木造 2 階建	60 歳／女 要介護度: 自立 疾病: 敗血症性ショック後に小脳性失調 障がい: 動作のコントロールが困難 認知症: 無	夫 (67 歳) 娘 (30 歳代)	④ ③ ②	・寝室の移動の安全性と容易性を確保する。 ・安全・自立した入浴が可能な浴室に改修する。 ・排泄行為を自立して行えるように便所を新設する。 ・空間の移動の安全性と容易性を確保する。
				⑥	・室内から車椅子で外出するアクセスを確保する。屋外から道路で車椅子で外出するアクセスを確保する。
事例 16 (P313 ～)	持家 木造 2 階建	77 歳／女 要支援1 疾病: 変形性膝関節症、高血圧症 障がい: 下肢機能障害6級 認知症: 軽度	無	② ③	・入浴の安全性と快適性を確保する。 ・廊下の移動の安全性を確保する。 ・外出の安全性を確保する。 ・シルバーカーでの移動の安全性を確保する。 ・安全な洗濯物干し場を確保する。
事例 17 (P323 ～)	持家 木造 2 階建	83 歳／男 要支援1 疾病: 喀血(3 年前) 障がい: 無 認知症: 無	妻 (77 歳)	② ③	・移動の安全性を確保するため、床段差・敷居段差の解消、各所への手すりの設置。 ・浴槽を浅いものに改修し、入浴の安全性・容易性を確保する。
事例 18 (P334 ～)	持家 木造 2 階建	87 歳／女 要支援1 疾病: 下肢筋力低下 障がい: 無 認知症: 軽度	夫 (82 歳) 長男夫婦(いずれも 55 歳)	② ③	・移動の安全性・容易性を確保するため、段差・敷居段差の解消、各所への手すりを設置する。
事例 19 (P344 ～)	持家 木造 2 階建	80 歳／女 要支援2 疾病: 坐骨神経痛 障がい: 無 認知症: 無		② ③	・寝室からトイレへのつたい歩きの安全性と容易性を確保する。 ・寝室から玄関へのつたい歩きの安全性と容易性を確保する。 ・外出時の敷地内の手押し車での歩行の安全性と容易性を確保する。

表資. 2 収録しているバリアフリー改修事例の概要(特徴)(つづき)

事例	住宅概要	対象者の状況	同居家族	改修の目的と内容	
				目的	内容
事例 20 (P354 ～)	民間借家 木造平屋	80 歳／男 要支援2 疾病:無 障がい:視力障害(全盲) (視力障害1級) 認知症:無	無	② ③	・段差の解消と手すりの設置による、移動の安全性を確保する。 ・トイレ動作の安全性・容易性を確保する。
事例 21 (P364 ～)	持家 木造 2 階建	86 歳／女 要支援2 疾病:両下肢筋萎縮症 障がい:無 認知症:無	無	② ③	・移動の安全性の確保のため、床段差を解消する。 ・トイレ動作の安全性・容易性を確保する。
事例 22 (P375 ～)	持家 鉄骨造 3 階建	54 歳／男 要介護2 疾病:筋萎縮性側索硬化症(ALS:進行性疾患)。障がい:体幹機能障害(起立困難・身体障害者等級2級)、言語障害 認知症:無	妻 (52 歳) 次女 (26 歳) 長男 (18 歳)	④ ③	・将来の車いす移動、介護量の増大に対応するため、1 階に生活空間を新設する(1 階への便所、浴室、洗面・脱衣室の新設)。 ・車いすで外出するアクセスを確保する。 ・廊下と各室間の段差ない移動を確保する。
				⑥	・上記の改修により、介護者の介助負担の軽減を図る。
事例 23 (P386 ～)	持家 木造 2 階建	79 歳／男 要支援1 疾病:心筋梗塞 障がい:無 認知症:無	妻 (70 歳代)	② ①	・将来の車いす利用に配慮した生活空間(寝室、便所、洗面・脱衣室、浴室)とする。 ・安全に2階に上られるよう階段を改善する。
				⑥	・玄関から道路までの車いすでの安全で容易な外出を確保し、介護者の介助負担を軽減する。
事例 24 (P397 ～)	持家 鉄骨造 3 階建	70 歳／男 要支援1 疾病:脳梗塞後遺症 障がい:無 認知症:有(アルツハイマー型認知症)	妻 (68 歳)	③ ②	・1階で安全・容易に生活できるようにするため、寝室を2階から1階に移動し、各所の段差の解消、安全で衛生的な便所への改修、座って利用できる洗面台の設置、安全で容易な入浴が可能な浴室に改修する。
				⑥	・玄関から道路までの車いすでの安全で容易な外出を確保し介助負担を軽減する。

表資. 2 収録しているバリアフリー改修事例の概要(特徴)(つづき)

(2) 高齢者以外の者の事故等による身体障がいに対応した事例

事例	住宅概要	対象者の状況	同居家族	改修の目的と内容	
				目的	内容
事例 25 (P409 ～)	持家 木造 2 階建	14 歳／男 疾病: 無 障がい: デュシャンヌ型筋ジストロフィー症(進行性疾患)(四肢体幹機能障害 1 級)	父親 (51 歳) 母親 (46 歳)	⑥	・抱きかかえ介助の負担を軽減するため、対象者の移動用のリフトを新設する。 ・1 階で生活が完結できるようにする。
事例 26 P420 ～)	持家 木造 3 階建	58 歳／男 疾病: 転落による多発骨折(骨盤輪骨折、左大腿骨転子部骨折、右上腕骨近位端骨折、両側踵骨骨折、右脛骨骨折、左肘頭骨骨折、陰部神経損傷、顔面骨折) 障がい: 肢体不自由総合 2 級(下肢 2 級、両肩 4 級、左肘 5 級)	妻 (50 歳代) 次男 (20 歳代)	③ ② ④ ⑤	・上下階の移動を安全かつ自立させるため、EV を新設する。 ・便所の利用の安全性を確保する(入り口の内開き戸を外開きに改修、排泄時の使い勝手を考慮した位置に立ち上がりのための手すりの設置) ・2 階でも安全に生活できるようにし、本人の QOL を維持向上させる。
				⑥ ⑦	・上下階の移動に伴う介護者の介助負担の軽減と、それによる社会生活の充実を図る。
事例 27 (P435 ～)	持家 木造 2 階建	32 歳／男 疾病: 脳性まひ(アトーシス+痙直型) 障がい: 四肢麻痺(身体障害 1 級、四肢機能障害 1 級、言語障害 3 級)	父 (63 歳) 母 (62 歳)	④ ① ② ③ ⑤	・電動車椅子を利用した 1 階での生活を可能とする(1 階に対象者の寝室の設置、居間の段差解消、車いすで利用できる便所への改修・洗面台の設置)。 ・電動車椅子での外出を可能とし、本人の生活をできる限り自立させる。
				⑥	・介助しやすい浴室に改修し、入浴時の介助負担を軽減する。
事例 28 (P448 ～)	持家 木造 2 階建	6 歳／女 疾病: 色体異常による脳性まひ及びまひによる変形あり、呼吸性不整脈 障がい: 発達障害、嚥下障害、四肢麻痺(身体障害 1 級)		⑥	・安全で快適な寝室を確保する。 ・外出時の車いすでの移動の介助負担を軽減する。
事例 29 (P458 ～)	持家 木造 2 階建	26 歳／男 疾病: 脊髄性進行性筋萎縮症(Kugelberg Welander 症候群) 障がい: 脊髄性進行性筋萎縮症。筋力の低下のため姿勢バランスを確保できない(身体障害 2 級)		⑥	・移動、排泄や入浴の介助負担を軽減する。 ・長期にわたって暮らし続けられるようにする。
				② ③	・移動、排泄や入浴の安全性や容易性を確保する。

表資. 2 収録しているバリアフリー改修事例の概要(特徴)(つづき)

事例	住宅概要	対象者の状況	同居家族	改修の目的と内容	
				目的	内容
事例 30 (P470 ～)	持家 木造 2 階建	17 歳／男 疾病: 無 障がい: 頸椎損傷(C-5・6)(高校のクラブ活動中に頸椎を損傷)(障害者手帳1級)	父 (51 歳) 母 (48 歳) 兄 (21 歳) 祖母 (76 歳)	⑥	・車いすでの自立した生活を可能とし、介護者の介助負担の軽減を図る。 ・特に、屋外への移動の介助負担を軽減するため、段差解消リフトの設置、寝室から直接車いすで利用できる浴室や便所の設置
				②	・車いすで安全に自立生活できるようにする。
				③	
				④	
				⑤	
事例 31 (P482 ～)	公営 住宅	48／女 疾病: 脳性まひ 障害:	夫 (37 歳) 長男 (9 歳)	③ ②	・浴室の利用の容易性の確保(浴室扉の新設、浅型浴槽への交換) ・居室(和室)と廊下の床段差の解消による移動の容易性の確保 ・車いすで利用しやすいシャワー付洗面器へ交換